

家畜保健衛生所たより

(平成22年度 第13号)

連日の猛暑で家畜の死亡事故が増えています。

9月も暑熱対策をしっかりと行い、

生産性の低下や疾病の発生を防ぎましょう。

夏バテ

- 採食量の低下
- 泌乳量の低下
- 産卵数の低下
- 増体量の低下
- 体の抵抗力の低下(ストレス、体力損耗)

暑熱対策

1 断熱・断照

- ①よしず、庇陰樹、ブラインド等を設置し日除けする。(特に西日が入らないように)
- ②屋根に石灰、白ペンキ等を塗装するなど、畜舎内に侵入する放射熱を少なくする。
- ③屋根裏面へ断熱材を設置したり、屋根上に寒冷紗等を設置し断熱する。

2 送風

- ①壁面、窓を開放し畜舎内の風通しをよくする。
- ②換気扇、ダクト等を設置し換気をする。
- ③扇風機は、外気の入力と送風角度を調整する。

山梨県西部家畜保健衛生所

韮崎市本町3丁目5-24

TEL 0551-22-0771

FAX 0551-22-6728

裏面へつづく

3 散水

- ①屋根に散水し、屋根自体の温度を下げる。
- ②細霧システムを設置し、畜舎内温度の低下をはかる。
- ③家畜に直接散水し、体温上昇を抑える。
- ④畜舎内外に散水し、畜舎内温度の低下を図る。
- ⑤散水する場合は、湿度の上昇に注意する。

4 家畜の管理

- ①暑熱ストレスを受けやすい家畜(高泌乳牛、子牛、肥育牛など)を、畜舎内の涼しい場所に移動する。
- ②乳牛、繁殖牛等は、夜間放牧を実施する。
- ③日中の放牧、パドック放飼は、必ず庇陰林などがある牧区(パドック)で行う。
- ④肥育牛、肥育豚、ブロイラーなどは、密飼をさける。
- ⑤家畜の行動をよく監視し、異常家畜の早期発見・早期治療に努める。
- ⑥畜舎環境を良好に保ち、アンモニア、ハエ等によるストレスを軽減する。

5 飼料給与

- ①新鮮な水が、不断吸水できるようにする。
- ②中古バルククーラーや井戸水などを利用して冷水の給与に努める。
- ③良質飼料、主要ミネラルを給与し、家畜の健康維持に努める。
- ④飼料の栄養濃度を高め、採食量が低下してもエネルギーが充足できるようにする。
- ⑤反芻家畜の場合、消化性の高い良質粗飼料を給与し、体温上昇を抑える。
- ⑥重曹、重炭酸カリウムなどのバッファーを給与し、ルーメン内のpH低下防止やミネラル供給に努める。
- ⑦サイレージ、加水TMR等の高水分飼料を給与する場合は変敗に注意する。
- ⑧飼料は涼しい時間帯に給与するとともに、給与回数を増やし、採食量低下に対処する。